



前回、ネット検索で思わぬ落とし穴にはまることなく、もとめる真実に近づくことができる検索に有効な「シソーラス」とは何かを説明した。今回は、検索内容をさらに深掘りしていくための、体系的なキーワード検索の考え方、アプローチとしての同義語・類似語のチェックについて説明してみよう。

#### 第十四話 同義語・類似語をチェックする

前回紹介したシソーラスの5つの用語の中で、最も重要でありながら、思いのほか難しく奥が深いのが、「同義語」、「類似語」である。名前が付けられるもの全てが、複数の同義語を持っていることを念頭において、ネット検索することが大切である。

人間の名前ひとつとっても、戸籍登録した正式な名称から、呼び名（日常の会話での）、渾名、改姓後の名前（結婚や養子縁組などによる）、戒名などなど。芸人やタレントになれば、芸名や役者名、名跡の襲名（歌舞伎など古典芸能）を有する。歴史上の著名人になれば、官職名のほかに幼名から神名まで色々な名称がある。現在まで残され使用されている。

豊臣秀吉を例にとれば、日吉丸、木下藤吉郎、羽柴秀吉、平秀吉、藤原秀吉、猿、禿鼠、筑前、太閤、豊国大明神、国泰祐松院殿靈山俊龍大居士などの名称が、ウィキペディアで、簡単に調べられる。「豊臣秀吉」の同義語の例を紹介しよう。豊臣秀吉の神号である「豊国大明神」を使って、グーグルで「豊国大明神 徳川家康」と検索してみる。そうすると、徳川家康と豊臣秀吉の戦いは、豊臣家滅亡後も続いていたことが、簡単にわかる。

すなわち、徳川家は、死後に神と祭られた秀吉=「豊国大明神」を世間から抹消するのに、多大な努力を払ったのである。豊臣家滅亡の後、徳川家は、豊臣秀吉の神権を剥奪し秀吉を祭る「豊国神社」を破却するために、様々な手段を講じたことが、調べられる。

同義語・類似語に、どんな種類があるかを見てみよう。一般名のほかに、専門用語（学術用語、法律用語、医学・薬学用語ほか）、公用語・標準語・地域語（方言）、略語（略称）、借用語（翻訳語、カタカナ語、外来語、和製英語）、商用語（商標登録した用語）、隠語（業界用語、通言・通用語）、差別用語（軽蔑語）、新語・死語まで、多種多様なのである。

世間的には、正式用語や専門用語は堅苦しかったり長すぎたりするため使用されず、代わりに分かりやすい一般語が使用される傾向がある。法律名、学術名、薬品名、美術品名、寺院名に至るまで、多くの場合、簡略化された一般名称が使われている。

ちなみに、「ネアンデルタール人」の学術名は「ホモ・ネアンデルターレンシス」、「天龍寺」の正式名は「靈龜山天龍資聖禪寺」、「ビタミンC」の化学名は「L-アスコルビン酸(2-オキソ-L-スレオ-ヘキソノ-1,4-ラクトン-2,3-エネジオール)」といった具合である。

もちろん、堅苦しい正式用語で検索することが、必要になる場合がある。例えば、法律名での

検索である。アルバイトやパートに関する法律名称は、「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」が正式であり、通称は「パートタイム労働法」、「パート労働法」という。正式名で検索すると、この法律の条文、指針、施行、改正などについて、正確かつ細かい内容までが簡単に調べられる。ちなみに、「アルバイト」や「パート」の同義語・類似語には、「非正規雇用者」、「アルバイト」、「パートタイマー」、「契約社員」、「派遣社員」、「請負社員」、「期間工」、「フリーター」、「フリーランサー」などがある。

注意して欲しいのは、本稿では、ネット検索の幅を広げるという観点から同義語を紹介している。これらの用語は、法律的にみた雇用形態では内容が異なっている。このため、同義語・類似語よりも、別のカテゴリーの関連語に含めるべきかもしれない。

例えば、「派遣社員」と「請負社員」は、指揮命令者がいずれの企業にあるかによって、厳密に区別され用いられている。それを偽り「偽装請負」をして不当な利益を得ていた業者が、2000年代半ば頃から告発され、大きな社会問題に発展している。

また、「フリーター」という用語は、「フリーランス・アルバイト」の和製英語とされるが、監督官庁の間でも定義が異なり内容も曖昧であり、人によって使われ方は様々であり、実態はよくわからない。この点、「派遣社員」や「請負社員」とは基本的に性格が違う用語である。従って、「フリーター」で検索された資料の中味は、注意深く読むことが求められる。

法律用語を説明してきたついでに、「音楽レコードの還流防止措置」について紹介しよう。この法律は、海外で発売されている割安な邦楽 CD（正規版）を、日本に逆輸入するケースが広がりを見せ、その輸入を規制するために、2005年1月に施行された。

この法律の制定には、消費者や音楽関係者などから強い反対の声があがったのである。この問題を調べるキーワードには、「音楽レコードの還流防止」、「レコード輸入権」、「逆輸入 CD 規制」、「海外 CD 輸入制限（禁止）」といった複数の同義語がある。

当然のことながら、どの用語で検索するかによって、得られる資料の内容は大きく異なる。簡単に言えば、規制賛成派と規制反対派は、それぞれ都合のよい同義語を使用し、自分らの立場を主張している。この事情を念頭においてネット検索をしないと、偏った情報収集になってしまう。複数の同義語で資料調べすることは、大切なのである。

言葉は生きものである。民間企業が一早く市場に送り出した商品がヒットし、その商品名が一般名称のように使用され定着する場合は、少なくない。「宅急便」と「宅配便」、「ポケベル」と「ページャー」、「ファミコン」と「家庭用ゲーム機」などなど。念のために書き添えるが、前者が商品名であり、後者が一般名称である。

外国人の間で、最近評判になっている商品として「ウォシュレット」がある。この商品名は、一般名として定着しつつある。日本を内外に紹介する NHK の深夜番組（クールジャパン）の 100 回記念特集で、外国人が一番関心を持っている日本商品は、「温水洗浄便座」と紹介している。NHK は、現在もお真面目に、商品名は使用せず一般名を使用するルールを、維持している。

この「温水洗浄便座」の同義語としては、「ウォシュレット」、「シャワートイレ」、「ハイテクトイレ」、「自動洗浄トイレ」などがある。最初の 2 つが商品名である。

検索したい用語の同義語を調べるのには、グーグルで、{類語辞典}や {シソーラス} と検索すれば、類語辞典が見つかる。筆者が読者に勧めるのは、ウィキペディアである。

以上みてきたように、同義語を探し、入手した同義語で更に検索を進めると、異なる視点や観点からの資料が入手できる場合が少なくない。手間隙を惜しまず、いくつもの同義語で検索を繰り返すことが、プラスαの情報を得るためには大切である。今回は、同義語の抱えるいろいろな問題に焦点をあて、この続きを説明することにする。